

## 4時から夢塾 ～「古典」ってなんだろう？～

第11回「4時から夢塾」(示範授業)を10月13日(火)、新潟大学附属長岡中学校の伊藤裕先生から、西中学校の1年国語：古典の授業で指導を頂いた。

### 1 授業の様子 教材名 「古典」って、なんだろう？

- 「古典と聞いて思いつく言葉をあげてみよう」→ワークシートに書く。
  - ・生徒の考え：古い本、妖怪、昔話、昔の話、昔の作品…。
- 「古典って、どんなものなのだろう？」→古典の形式(絵巻物と綴じ本)、くずし字について紹介
- 「実際の古典を解説してみよう」→A：国会図書館蔵、B：早稲田大学蔵の2種類の「竹取物語」を提示
  - ・「さぬき」と「さるき」の表記の違いから、異本の存在意義を考えさせる。
- 「同じ作品でも違う形がある。どんなメリットがあるだろうか？」
  - ・生徒の考え：模写した人の個性が出る。模写した人の数分かる。写した時代が分かり易い…。



### 2 ミニ講座 古典学習のアイデア

- 古典学習、どのように考えていますか？→大切に授業していることは？ 難しいところは？
  - (伊藤裕先生が) 古典学習で大切にしていること。→①「音読-暗唱-内容理解」の型からの脱却
    - ②生徒がやってみたいと思える課題設定③教科書を複数のテキストとの比較から捉え直す教材研究「異本」
  - これまでの実践から(1年「竹取物語」)冒頭部の音読、歴史的仮名遣い、物語の構成や特徴を捉える。
    - ・地名起源説話の理解→「富士山」の由来：不死-不死の薬を焼いた-煙がいつまでも-ふじの山
  - これまでの実践から(2年「平家物語」敦盛の最期)
    - ①「教科書と異本との比較読み」を、読解を深める手立てとして設定する。
    - ②「知識構成型ジグソー学習を、対話と読みを深める言語活動として設定する。
  - ・異本が数多い平家物語。琵琶法師の語りを文字化→語り本系統。文字で読まれること前提→読み本系統。
  - ・課題・『敦盛の人物像を明らかにしよう』⇒語り本と読み本との比較読み(古典の多様な世界に触れる。)
  - ・貴族としての敦盛はどのように描かれている？⇒戦場でも貴族の身だしなみや持ち物がしっかりしている。
- これまでの実践から(3年「奥の細道」)
    - ①教科書本文と芭蕉自筆本や諸本を比較し、芭蕉の推敲課程を分析する。
    - ②「奥の細道」と「曾良旅日記」を比較し、『虚構』について考えを深める。
  - これまでの実践から・教科書に再録の古典教材を「異本」という視点から、系統的に指導することが可能。⇒古典の多様性を実感できる授業へ。
  - おわりに・・・古典教材も「文学教材」である。
    - ・生徒が「やってみたい」と思える授業を開発し、追究することが大切だ。

### <参加者の声> ・古典の授業が「暗唱で始まり理解へ」と、はまったものになりがち

- であった。あえて難しい課題に向き合わせることに挑戦してみようの気持ちになった。
- ・くずし字や異本の存在を知ること、古典への理解が深まることを学ばせてもらった。
- ・古典の授業の進め方で色々悩むことが多く、役立つ地域や技術を教えて頂いて、参考にしようと思った。
- ・1年生の導入で、絵本等は使ったことがあったが、異本やくずし字を取り上げたことがなく勉強になった。
- ・小学校と中学校の国語のつながり、教材文と子どもの興味をつなぐもの等、考える機会を頂いた。
- ・適宜、ペアやグループでの相談を取ったり一人で考えさせたり、一時間のメリハリの付け方も真似したい。

